南洋群島における従軍慰安婦について：

知られざる問題とその国際的課題

寶川里奈

日本大学国際関係学部国際交流学科 4 年

2012 年 1 月 10 日

目次

はじめに
第１章　従軍慰安婦とは
第２章　南洋群島に渡った日本人慰安婦
第３章　南洋群島に渡った韓国人慰安婦
第４章　南洋群島のチャモロ人慰安婦
第５章　慰安婦たちの戦後・国際問題としての慰安婦
おわりに

……

寶川里奈氏は卒業論文執筆の際、Keith L. Camacho, *Cultures of Commemoration: The Politics of War, Memory, and History in the Mariana Island* (University of Hawaii Press, 2010)　を文献に使用した。同書は 2012 年度大平正芳賞を受賞した作品で、寶川氏が卒業論文を執筆した時点では、まだ邦訳は出版されていない。その意味でこの卒業論文は日本の読者にまだ広く紹介されていない新しい事実を明らかにした労作と言える。ここでは、目次と、*Cultures of Commemorations*　を資料に用いた第 4 章と、第 5 章の一部、「おわりに」を、若干の編集を加えて紹介する。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第４章　南洋群島のチャモロ人慰安婦

この章ではグアムでのチャモロ人慰安婦について触れていく。もちろんこれまで見たように、サイパン・ロタ・テニアンにも慰安所はあった。サイパンにおける慰安所の経営は南洋興発が行っていた。[1]　しかしチャモロ人など現地女性がサイパンで慰安婦として働いたという資料がなかったので、サイパンと同じマリアナ諸島のグアムでの慰安婦の話を紹介したい。

グアムは「南の島の楽園」というイメージに限っては非常にサイパンに似ており、またグアムにもサイパン同様チャモロ人が暮らしているが、慰安婦問題をめぐる 2 つの島の背景は異なるものである。グアムは日本が第 2 次世界大戦中に米国から奪い取った唯一の有人領土である。1941 年 12 月、日本軍は米領グアムを占領し「大宮島」と改名して統治を開始した。そして 1944 年 7 月には、「大宮島」を死守する日本軍と、上陸を狙う米軍が交戦し、同年 8 月戦いに敗れた日本軍は「大宮島」を手放すことになり、以後「大宮島」は再び米領グアムとなる。[2]　このようにグアムでは 2 年半しか日本統治時代がなかったのだが、その前後はアメリカが統治していたため、この島での慰安婦問題が戦後日米外交問題に発展していく。この意味で、グアムの従軍慰安婦問題は特殊なものであることをあらかじめ述べておく。

日本軍がグアムを占領していた 2 年 7 ヶ月の期間に「慰安婦」にされたチャモロ人女性はそれほど多くはなかったようだ。日本側の資料によれば、日本占領直後に日本人慰安婦は 45 人、現地女性たちは 15 人であったようだ。しかしその後、数が増えていくが、以下のような現地女性を雇っていったようだ。

１）アメリカ統治時代、アメリカ兵を相手に性的サービスを提供するホステスやガールフレンドだったチャモロ人女性。
２）日本軍による占領後、日本軍によって慰安婦にさせられたチャモロ人女性。
３）日本統治後、反米の立場から日本軍の慰安婦に志願したチャモロ人女性・
４）日本兵の現地妻となったチャモロ人女性。[3]

日本軍はヨーロッパと人との混血チャモロ人女性も慰安婦として働かせることを考えた。しかし混血の女性は、すでに米軍の高官の愛人となっていた例が多く、彼女たち

---

[1] Keith Camacho, *Cultures of Commemoration*, p.49.
[2] 山口誠『グアムと日本人　戦争を埋立てた楽園』（岩波書店　2007 年）、pp.iv－v.
[3] 伊従直子『「慰安婦」戦時性暴力の実態(Ⅱ):中国・東南アジア・太平洋編』（緑風出版 2000 年）、pp.338－339

を日本軍の慰安婦として無理に働かせようとすると、島民の間に暴動が起こるかもしれないと南洋庁が止めたこともあり、これは失敗に終わった。これは当時南洋興発の従業員であった田中トラジという人物の証言による。[4]

日本軍が白人の風貌を持つ女性を慰安婦として望んだケースは他にもある。日本占領下オランダ領インドネシアにおいては、インドネシア人女性だけではなく、インドネシアとオランダ人の混血女性や、オランダ人女性が慰安婦として使われていた。[5]　当時のオランダ領インドネシアでの法律によると、ヨーロッパ人という表現は、「トトク」と称された純血のオランダ人に加えて、ドイツ人、イタリア人、ハンガリア人、ロシア人、ベルギー人、イギリス人のような純血の欧州人と、インドネシア人と欧州人の混血の両方を指していた。[6]　インドネシア各地の娼楼に、そのようなヨーロッパ人女性を送り込むために、日本占領軍が実力行使をした事例はあったという。1942 年後半までに娼楼で働いていた 200 人から 300 人のヨーロッパ人女性のうち、約 65 人は売春を強要されたとする記録がある。[7]

日本軍がオランダ領インドネシアの慰安所に集めた女性は、日本人と韓国人を別にすれば、3 つのグループに分けられる。1 つ目はインドネシア人女性、2 つ目は拘留所に抑留されていたヨーロッパ人女性、3 つ目は、拘留所の外に生活していたヨーロッパ人女性である。[8]　ヨーロッパ人女性がオランダ領インドネシア各地で一斉に抑留所に収容されたわけではないが、1942 年の後半までには 14 万人を超えるヨーロッパ人が捕虜として、あるいは民間人として強制収容されたが、一方約 22 万人のヨーロッパ人（主としてジャワ在住のオランダ・イアンドネシア混血）が収容所の外で暮らしていた。ヨーロッパ人であっても、中立国出身者や、日本と同盟を結んでいる国の女性は抑留されなかった。さらにヨーロッパ系混血の女性も抑留されなかった。しかしながら、実際はこれらの基準がきちんと守られたわけではない。　特にオランダ人とインドネシア人との混血女性をどう扱うかについての方針は定まらなかった。[9]　日本軍がオランダ人女性に行った監禁や強姦には「白馬事件」とよばれる例がある。白人女性を白い馬にたとえたもので、別名「スマラン事件」とも呼ばれる。1944 年 2 月、南方軍管轄の第 16 軍幹部候補生隊が、オランダ人女性 35 人を民間人抑留所からスマランにあった慰安所に強制連行し強制売春させ・強姦したのだ。戦後、国際軍事裁判において、当時の日本人将官や兵站責任者の佐官などの高級将校を含む当該軍人・軍属、請負業たちに有罪判決が宣告されている。

---

[4] *Cultures of Commemoration*, p.150
[5] 村松太一郎・村岡崇光・糟谷廣一郎『慰安婦強制連行資料オランダ軍法会議資料「ルポ」私は日本鬼子の子』（金曜日　2008 年）、p.215
[6]『慰安婦強制連行資料オランダ軍法会議資料「ルポ」私は日本鬼子の子』p.217
[7]『慰安婦強制連行資料オランダ軍法会議資料「ルポ」私は日本鬼子の子』p.216
[8]『慰安婦強制連行資料オランダ軍法会議資料「ルポ」私は日本鬼子の子』pp.219－220
[9]『慰安婦強制連行資料オランダ軍法会議資料「ルポ」私は日本鬼子の子』p.220

話を南洋群島に戻すが、1941 年頃、もともとサイパンで働いていた 42 人のアジア人の慰安婦は、グアムに移っていた。この中に日本人がいたかどうかははっきりと分かっていないが、さらに 15 人のグアムに暮らすチャモロ人が慰安婦として彼らに加わった。彼女たちは戦前からアメリカ軍に性的サービスをしていたため、現地社会ではすでに「評判が悪かった」という。[10]　あまり知られていない事実であるが、実はアメリカ軍も統治時代にチャモロの女性を慰安婦として使っていたのである。　アメリカ統治時代、彼女たちは米軍警察に監視され、そうしたサービスに従事するという証明書を発行され、１か所に集められ管理されていた。彼女たちは「月曜日の女たち（Monday Ladies）」と呼ばれていた。その理由は、米国統治時代毎週月曜日には米軍によって性病検査を受けていたからである。しかし米兵たちは軍が管理していない、バーで働く女性や街で見かけた女性とも関係を持つこともある。その場合は避妊も行わず、結果として妊娠してしまう女性も多かったようだ。[11]

さてチャモロの女性の中にはもともと日本人の高官や地主、警察長など身分の高い人と暮らしていた人たちもいたが、それが自発的かどうかは分かっていない。[12]　当時 Monday Ladies のアシスタントをしていたシノハラという日系男性は、チャモロの女性と結婚していたが、チャモロの女性を慰安婦として紹介する斡旋屋をしていた。シノハラがチャモロの女性を慰安婦としてリクルートする方法として、当時高価であった布団やミシンを現地家庭から借り、これらを女性たちに見せて、これを使ってメイドとして日本人の家で働いてくれないかと、言葉巧みに騙していたようだ。当時元日本海軍の兵士であったヒロセ・ヒサシという人物も、確かにこういうやり方はあったと証言している。[13]　このシノハラという男は日本のスパイのような働きをしたため、現地の人にはとても嫌われていた。シノハラは戦後、現地の女性２人を強制連行した容疑と反逆容疑で有罪となり、死刑宣告を受けたが、その後懲役 15 年に減刑されている。

いずれにしても、日本軍・警察は強制的または言葉巧みにチャモロ人女性を慰安所で働かせた。　チャモロ人女性の中には、もともと女中として日本人の家で働き、家事をしたり、教師の助手や農業をしたりしていた人がいて、家主から性的暴力を受けたこともあったそうだ。それで、美しい娘がいる家庭では、日本軍に娘を連行されることを、そして連行されてそれを近所の人に噂されることを、特に恐れた。[14]

チャモロ人の女性の中でも親米派は、日本人男性と結婚したり、日本人男性の性的相手をする同じチャモロ人女性を非常に見下していたそうだ。しかし一方で、反米の立場を取るチャモロ人女性は、逆に親日的態度をとったようだ。「日本は今、アメリカとの戦いに勝っている。日本の男が他の国の男より劣るということもない。日本の男の相手

---

[10] *Cultures of Commemoration*,　p.150
[11] *Cultures of Commemoration*,　p.151
[12] *Cultures of Commemoration*,　p.151
[13] *Cultures of Commemoration*,　p.152
[14] *Cultures of Commemoration*,　p.152

をしたからといって、自分の地位が下がるなんてことはない」と強く反発した場合もあったようだ。[15]

日本軍に協力した現地チャモロ人女性たちと、日本人慰安婦との関係についても触れておきたい。前出の菊丸さんの手記[16]　にあったように、現地のカロリニアンの女性が日本人慰安婦たちの身の周りの世話をさせられることもあった。菊丸さんの手記によると、彼女は日本軍士官用慰安婦として一種のエリート扱いを受けていたので、島民たちは　支配者が連れて来た自分たちのことを憧れの眼差しで見ていた、と勝手に述べている。[17]

基本的にグアムにおいて、韓国人女性とチャモロ人女性の慰安婦たちは、一般日本兵士の相手をしていたらしいが、日本海軍将校たちは特定のチャモロ人女性を選び、彼女たちに家事や身の回りの世話をさせていたようだ。　その中の 1 人マリキータという女性は、アメリカ人の水兵と結婚して 2 人の幼児の母でもあったが、とある日本人隊長のお気に入りとなった。しかし、マリキータは隊長になびくことなく、それを面白く思わなかった隊長に部屋へ呼びこまれ、乱暴された後で殺害された。似たようなケースは他にもあったようだ。[18]

慰安婦と兵士の恋愛感情・愛情

チャモロ人慰安婦の中には、愛情のために慰安婦になる、自分は日本人の恋人・ガールフレンドだと言ったり、自ら志願して慰安婦になった人もいたようだ。　そうだとしても「現地妻」に過ぎなかった例もあるだろうし、中には本当に日本人軍人と恋愛関係を結ぶ女性もいたのかもしれない。日本人が言葉巧みにガールフレンド・恋人という言葉を使ってチャモロの女性を弄んだということもあるかもしれない。チャモロ人女性でアメリカに反抗した人は、アメリカに対するあてつけのような感情で日本人男性と関係を持ち、それを美化したこともあったのかもしれない。

前章でみたように、日本人慰安婦の中にも、軍人に対してそうした恋愛感情を持つも

---

15 Cultures of Commemoration, pp.151－152

16 （編集注）菊丸さんの慰安婦としての体験については第 2 章で説明されている。菊丸さんは、1942 年 3 月、18 歳の時にトラック島に渡った。彼女は青森で生まれ育ったが、10 歳のとき村の農村の飢饉により生活が苦しくなり、親に東京へ芸者の置屋の仕込っ子として売られた。4000 円（今でいう約 92 万円）近い借金を解消させるため、トラック島に慰安婦として渡ることを決意したという。菊丸さんとともに上陸した従軍慰安婦は約 100 名、そのうち少尉以上を相手にする士官用慰安婦は約 33 名いた。士官用は日本からきた芸者などプロの女性が当たることが多かったので、菊丸さんは仕官用慰安婦としての指名を受けていた。[広田和子『証言記録　従軍慰安婦看護婦戦場に生きた女の慟哭』（新人物往来社、1975 年）　pp.18－38。]

17 広田和子『証言記録　従軍慰安婦、看護婦ー戦場に生きた女の慟哭』pp.37－38

18 『「慰安婦」戦時性暴力の実態Ⅱ中国・東南アジア・太平洋編』　p.340

のがいた。前出の鈴木さんの回想では[19] 1 人の兵士が慰安婦を狂うほど愛した話が出てくるので、ここに紹介する。鈴木さんの友人が、夜寝ているところを兵士に斬られたという話なのだが、ここには兵士の行き過ぎた愛情があった。　鈴木さんの友人の慰安婦が相手にした兵士に対し、日本に帰ったら一緒になるというようなことを軽い気持ちで言ったようなのだが、純情な兵士はそれを真剣にとらえてしまった。彼女の冗談であったことが分かると逆上し、駐屯していた別の島から夜、カヌーで戻って来て、鈴木さんたちが寝ている慰安所に窓から入り、その女性をかやの上から斬りつけたのだ。すごい悲鳴が聞こえ、その兵士は捕まり、『氷川丸』で日本へ送り返されたが、途中海に飛び込み死亡したようだ。　斬られた鈴木さんの友人も、入院して 50 針近く縫うことになり、退院したあとも、うなされ続けたようだ。鈴木さんや仲間の慰安婦たちは、あまり純情な兵士はだますものではないと肝に銘じたようだ。[20]

兵士に惚れた慰安婦の話もある。トラック島で「衛生兵」をやっていた大野さんという人の証言によると、ハンサムで気のいい士官に惚れた士官用の慰安婦は、朝早くに軍へ来ては、会わせてくれとしつこく頼むので、困ったことがあったそうだ。[21]

日本人慰安婦と日本兵の間にも、このような関係が発生したとすれば、チャモロ人慰安婦と日本兵の間にも同様の「恋愛感情」があったことも可能であろう。

1944 年 7 月、米軍は爆撃機で空からグアム攻撃を始めた。これに慌てふためいたグアムの日本軍は、占領以来自分たちになつこうとしなかった親米のチャモロ人女性に悪行をおこなったようだ。7 月 19 日、「フェナの大虐殺」はその一例である。16 歳から 19 歳のチャモロ人女性約 50 名を、日本人隊長とその兵士に仕えるためという口実でフェナの洞窟へ連れて行った。そこで酒に酔った日本兵は、彼女たちに、彼らに身を捧げなければ殺されるのだと告げ、次から次へと一晩中彼女たちを犯した。　男たちは満足すると彼女たちを射殺、手りゅう弾を洞窟に投げ込んで自分たちは逃走したという。[22]

チャモロの人々は温厚で笑顔が多く人なつこい性格であったため、日本人は支配する立場として、扱いやすさを感じていたかもしれない。そういう思い込みがあったから、逆に日本兵になつかない現地女性に対して、このような残虐行為に及んだのだろうか。さらにもう少し踏み込むと、差別感情が残虐行為を激化させたことも考えられる。

戦前『酋長の娘』という曲が流行った。

1．私のラバさん（Lover：恋人のことであると思われる）

---

[19] （編集注）鈴木木文さんについても、卒業論文第 2 章で詳しく説明されている。鈴木さんは、菊丸さんと同じく親が抱えた借金を返すため、生まれ育った三重県の志摩半島から三重県津市にある置屋に 7 歳のとき売られ、その後静岡、三重、大阪などを転々とした。トラック島へ渡ったのは 1932 年 3 月、18 歳の時で、1 年 10 ヶ月そこで一般兵士用の慰安婦として働いた。（『証言記録　従軍慰安婦、看護婦ー戦場に生きた女の慟哭』 pp. 37－49。）

[20] 『証言記録　従軍慰安婦看護婦戦場に生きた女の慟哭』p.48

[21] 『証言記録　従軍慰安婦看護婦戦場に生きた女の慟哭』p.48

[22] 『「慰安婦」戦時性暴力の実態Ⅱ中国・東南アジア・太平洋編』pp.340－341

酋長の娘
色は黒いが　南洋じゃ美人
2．赤道直下　マーシャル群島
椰子の木蔭で　デクデクおどる
3．踊れ踊れ　どぶろくのんで
明日は嬉しい　首の祭り
4　踊れ踊れ　踊らぬものに
誰がお嫁に　行くものか
5．昨日浜で見た　酋長の娘
今日はバナナの　木蔭で眠る

第一次世界大戦中、日本海軍がドイツ領有の南洋諸島（マーシャル群島等）を占領し、それが 1921 年より日本委任統治地となる。その 4 年後の 1925 年に、この歌が生まれたのである。[23]　日本人男性は、南洋の女性に対して、単純に異国の女性という憧れを抱いていただけでなく、未開人と見下していたようだ。　残虐行為の背景には、そうした女性たちが自分たちを相手にしてくれないことに腹を立てたこともあったのではないか。

グアム島で日本軍の慰安婦となった女性たちは、戦後 65 年以上たった今でも　ほとんど名乗り出てきて証言することはないに等しいそうだ。これは彼女たちが信仰するカソリック教の影響と、チャモロ人独特の村落共同体の中で他者の名誉を尊重し、傷つけない文化が大きく影響しているという。彼女たちの中には、小さな島を離れて、アメリカに移住したり、修道院に入る人もいるらしく、島で直接的に証言をとることはかなり難しいようだ。[24]　そのため、チャモロ人慰安婦の証言が書かれた資料はあまりなく、あったとしても、それは被害者の知人や社会的に周知されたケース、資料に記載されているものがほとんどで、彼女たちの陳述は曖昧だったようだ。[25]　太平洋戦争当時反米の立場を取り、自発的に日本軍の慰安婦になった女性もいたため、そうした立場を公にすると、戦後再び支配者となったアメリカ合衆国に対して不都合が生じることもあるのだろう。　またそうした反米派女性がいたということは、アメリカ自身にとっても具合の悪い史実である。[26]

日本としても、チャモロ人やカロリニア人が、日本軍慰安婦をどのように考えていたか、もっと研究する必要がある。　この地域の人びとが「親日的」というイメージにば

---

[23] http://homepage2.nifty.com/182494/LiederhausUmegaoka/songs/I/Ishida/S1684.htm
藤井宏行『酋長の娘』（2007 年 12 月 8 日配信　2011 年 12 月 10 日閲覧）
[24] 『「慰安婦」戦時性暴力の実態Ⅱ中国・東南アジア・太平洋編』p.339
[25] 『慰安婦と戦場の性』p.320
[26] *Cultures of Commemoration*, p.156

かり目が行って、他の根本的なことに気がつかない危険があるからだ。　前出の菊丸さんの手記の中に気になることがある。　島に日本人が来るまでは、トラック島の人びとは椰子の葉っぱで蓑を作り、それを体に巻くだけだったが、自分たち日本人が来てから、だんだんとみんなモダンになり、ズボンをはいたり、ベルトをするようになった。菊丸さんによると、島民にお酒やタバコを渡すと、鶏の石焼やバナナ・パイナップルを葉っぱで編んだかごに入れて持ってきてくれた、とのことだ。　最初のうちは島民もタバコ１つでバナナを持ってきたが、島民もだんだんと欲が出てきて　そのうちタバコだけではだめだ、お酒も欲しい、と言いだすようになったそうだ。菊丸さんは、純朴だった島民に欲を覚えさせたのは日本人兵士や自分たちで、それでは彼らに文化生活を教えたことにはならないと語っている。[27]

第５章　慰安婦たちの戦後・慰安婦問題

（中略）

II.　韓国人慰安婦　訴訟問題

今日、韓国において日本軍の韓国人慰安婦への強制連行、残虐行為が問題になり、度々訴訟問題に発展している。このきっかけとなった出来事とされるのは 1989 年に韓国で起こった民主抗争のなか女性運動がめざましくなり、その中で女性の立場から日本帝国主義下における韓国人の被害を見つめなおそうとする動きが出てきたことが根底にあったようだ。1991 年 8 月、1 人の韓国人女性慰安婦が自分が元従軍慰安婦であったことを名乗り出た。そして、同年 12 月、彼女は他の元従軍慰安婦らと日本の責任を追及して、東京地裁に訴えた。[28]

1992 年 1 月朝日新聞が 1 面トップで、慰安所の設置、慰安婦の募集、監督に日本軍が携わっていたことを報じ、日本でも大きな社会問題となった。[29]　この記事がでた 5 日後に訪韓した当時の宮沢喜一首相は韓国で謝罪を繰り返した。そして同年 7 月に当時の加藤官房長官が、1993 年 8 月には河野官房長官が慰安婦に対する第 1 次 2 次の調査報告書を発表し、河野官房長官は「総じて本人の意思に反し、女性の名誉と尊厳を著しく傷つけた問題」としてお詫びと反省の気持ちを表明した。[30]　1995 年 7 月日本において、日本国民の償いの気持ちとして被害者に届ける全国民規模の拠金を募ることを目

---

[27] 『証言記録　従軍慰安婦看護婦戦場に生きた女の慟哭』 pp.36－37
[28] 前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』ｐ.2
[29] 前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』ｐ.23－24
[30] 前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』ｐ.3

的とした「アジア女性基金」が 35 億円の税金を使い設立された。[31]

訴えを起こした女性は 1997 年当時の橋本総理の謝罪を受け、1 人 500 万円を受け取った。[32]　しかし、戦後徹底された反日ナショナリズムやアジア女性基金の韓国世論を敵に回す行動により、基金から賠償金を受け取った被害者を苦しめたなど様々な要因で結果として解決に至らないまま、2007 年アジア女性基金は解散した。[33]

2011 年 12 月、韓国ソウルの日本大使館の前に慰安婦の少女像が置かれた。集まった人たちは日本は法的（国家的）に謝罪と補償しろと抗議を行った。この行動に対し日本政府側は正式に撤去を要求したが、韓国政府側は黙認する事態になり、日韓関係への影響が懸念されるようになった。

韓国人慰安婦問題を考えるとき、南洋の島々が舞台となっていたことを知っている日本人はほとんどいない。今後は、南洋群島で起こったことも人びとは知っていく必要があるだろう。

III.　アメリカ合衆国下院１２１号決議

前出したように、1941 年 12 月、日本軍が米領グアムを占領し「大宮島」として統治したが、1944 年 8 月日本軍が戦いに敗れると「大宮島」を」は再び米領となった。サイパンでも 1944 年夏、日本軍は玉砕し、島は米軍に統治されるようなった。このため、南洋群島でのチャモロ人慰安婦問題は、戦後に日米外交問題にも発展した。

2007 年 6 月 26 日、アメリカ合衆国下院外交委員会において、太平洋戦争中、当時の日本軍が統治していたグアムやサイパンにおいて、アメリカ人女性（チャモロ人女性）を従軍慰安婦として強制的に性奴隷として使用した事実があったことを日本に認めさせ、この事実に対して日本側からの謝罪を要求すること、そしてそういう事実の認識とそれに対する謝罪を日本国内での教育に反映させるべし、という議案が可決された。[34]

これに対して、当時の塩崎官房長官は、海外の議会で可決されたものに正式なコメントをする必要はないとした。　従軍慰安婦問題の存在に否定的な「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」などの保守政治家も、記者会見で「慰安婦は性奴隷などではなく、自発的に性サービスを提供した売春婦に過ぎず、虐待などの事実もない」と発言した。また当時の安倍首相も「慰安婦」への狭義の強制性はなかったと発言した。[35]

上のような日本側の回答に対し、アメリカの韓国系市民で構成される慰安婦支援団体

---

[31] 前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』p.24
[32] 前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』p.140
[33] 前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』p.6
[34]　加瀬みき・岡本行夫「特集日米同盟を脅かす慰安婦発言」『中央公論』（2007 年）、pp.134－135
[35]　前出『「慰安婦」問題とは何だったのか』p.248

は、米領グアムで日本軍将校が米国籍のチャモロ人女性を性的に搾取したとする米海軍の裁判記録を提出した。これに対して日本の右派、保守派は「個人的な犯罪であり、慰安婦に対する組織的な性的搾取・虐待の証拠にはならない」と反論した。ワシントン・ポスト紙は、安倍首相が同様の対応を示したことに対し「民主国家の指導者として恥である」と非難した。[36]

アメリカ上院・下院では、女性議員の発言力の増大が著しい結果、女性や子供、高齢者など社会的弱者への加害行為に対して、厳しい追求がなされるようになっている。[37] また、この決議案の推進者であるマイク・ホンダ議員（日系アメリカ人）は、地元有権者の３割を占めるアジア系の人たちにより一層気を使う。　そして下院議長となったナンシー・ペローシ議員が人権問題に非常に熱心であるという事情も加わって、従軍慰安婦問題は日米関係の文脈で解決されなければならない「人権問題」として　アメリカでも脚光を浴びるようになったのだ。[38]　当時の安倍首相は、この慰安婦問題が日米関係をこじれさせると懸念し、訪米した際にブッシュ大統領との会談にて、自ら慰安婦問題の話を出し、存在を認め、謝罪した。ブッシュ大統領はこれを誠意のある謝罪と認めたため、とりあえずアメリカ国内での日米慰安婦問題は収束していった。[39]　しかし日本人にとっては、この問題は「解決した」とはとうてい言えないものである。

おわりに

従軍慰安婦というと、現在韓国側が主張しているように、強制的に働かされ兵士の性の奴隷にさせられ辛く苦しい生活を送った悲劇の女性たちというイメージも強い。しかし、日本人慰安婦の場合は、自ら志願して戦地などに赴いた人も多かった。そして現地での慰安婦としての生活は苦しいものではなく、むしろ楽しかったと語る人もいた。
チャモロ人女性の場合も、親日の場合は、志願して慰安婦になったケースもあり、決して全ての女性が強制的に慰安婦にされたわけではないようだ。一方で、慰安婦の女性たちは、人種や出身国によって待遇が異なったのも事実である。韓国の女性たちの扱いに比べて、士官用の日本人慰安婦の場合は、至れりつくせりであったようだ。さらに南洋群島において、現地女性が従軍慰安婦となった背景も、従来の理解の枠には当てはまらないものである。日本人男性のチャモロ人慰安婦への恋愛感情や、混血女性へのねじれた思いなど、特に今後解明していきたい点である。

当時慰安婦をしていた女性は、年齢的にもまもなくこの世を去るであろう。この卒業

36　前出『特集日米同盟を脅かす慰安婦発言』p.135
37　前出『特集日米同盟を脅かす慰安婦発言』p.135
38　前出『特集日米同盟を脅かす慰安婦発言』pp.147- 148
39http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_abe/usa_me_07/j_usa_gai.html
外務省『日米首脳会談の概要』（2007 年 4 月 27 日　配信　2012 年 1 月 18 日閲覧）

論文で考察した南洋群島だけでなく、日本が占領していた国で日本軍によって慰安婦にさせられた女性はまだ他にも大勢いる。彼女たちの中には慰安婦時代に受けた心身の傷で未だに苦しんでいる人も大勢いるはずだ。かつての南洋群島は、戦後日本人のあこがれのリゾートとして人気が出た。特にサイパンとグアムは、ハネムーン先として人気が出た。この南国のパラダイスでも従軍慰安婦が苦しんだことを、日本人は知らなければならない。